

最近の急性中耳炎事情

急性中耳炎は幼少期によくかかる感染症のひとつです。生後3歳までに約70%の子どもが少なくとも1回は急性中耳炎にかかるといわれています。急性中耳炎の多くは、今まで抗菌薬での治療で簡単に治っていました。

しかし、近年では抗菌薬を投与しても急性中耳炎が改善しない例や繰り返す例が増加しています。その原因として薬の効きにくい菌の出現や社会的要因としては、保護者の仕事の関係で2歳以下の低年齢から長時間保育園に通う子どもが増え、子ども同士の接触時間が長く、感染症がうつりやすくなったこと、保護者の喫煙なども関係しているのではないかとされています。

治りにくくなった急性中耳炎は原因となる菌を調べ、適切な抗菌剤を必要な量と期間使用することによって治療効果を期待できます。また、耳鼻咽喉科を受診し、中耳にたまった膿（うみ）を鼓膜に穴を開けて排出したり、プラスチックのチューブを入れて洗浄を繰り返す外科的な治療も治りを早くします。

薬にだけ頼ることなく、予防するワクチンも研究されています。急性中耳炎にかかりやすい子どもを早く発見して適切な治療計画を立てるための治療の道しるべも作成されています。近い将来、急性中耳炎は簡単に治る病気の一つになることが予想されます。

中村晶彦